

令和7年度 流山市在宅医療介護連携推進事業実績報告
 位置づけ:高齢者支援計画(第9期:R6-R8年度) 対象:介護保険 要介護・要支援認定者、総合事業対象者、障害者

理念	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心・安全に自分らしく生活することができる。希望すれば最期を自宅で迎えることができる。				
長期目標	在宅療養者を人生の最期まで支える24時間365日緊急対応可能な医療と介護の連携システムの構築を図る。				
中期目標	①市民啓発	市民が在宅療養や人生会議(ACP)について知ることができる。			
	②人生会議(ACP)推進	医療・介護の関係者が人生会議(ACP)に関する意思決定支援を実践できる。			
	③情報共有	医療・介護の関係者間でスムーズに情報共有できる。			
	④多職種連携	病院・在宅・施設・消防の関係者間で連携を深めることができる。			
4つの場面	中期目標	対象	令和7年度計画 令和7年度実績報告		
資源	本人・家族	GISを活用した介護保険事業者情報を更新する。	令和7年10月に更新。		
	本人・家族	在宅医療に関する医療機関情報をGISで掲載し、定期的に更新する。			
	本人・家族	医療情報については「医療情報ネット(ナビイ)」を案内する。	在宅医療についてのホームページを再編。		
	本人・家族 専門職	在宅療養に関する情報に気軽にアクセスでき、見やすいホームページを目指し、随時更新する。			
	専門職	ハラスメント防止啓発のリーフレットを作成し、使用実態アンケートを実施。(R7.2月末)アンケートの結果を踏まえ、使いやすいリーフレットを目指し、内容の見直しや改訂を検討する。	令和7年1月～2月に実施したアンケートをもとに、令和7年11月に改訂版リーフレットを発行。 市独自の補助金事業を実施①流山市訪問介護職員等ハラスメント対策機器等導入費用補助金②流山市訪問介護職員等複数人訪問補助金		
	専門職	在宅療養支援診療所の実態把握調査を踏まえ作成した在宅医療提供医療機関パンフレットを病院関係者やケアマネジャーが活用し、患者紹介に役立てていただく。また、医療機関間の連携においても役立てていただく。	一部情報に変更が生じたため、令和7年5月に改訂版パンフレット(第1.1版)を発行。 今後は2年ごとに情報更新や内容の見直しを行う方針。(時期改訂は令和9年度を予定。)		
共通	専門職	多職種間での情報共有を円滑にするため、情報共有システムの活用を促進する。 たとえば、介護と医療をつむぐ会、看取り症例検討会などで情報共有システムについて周知するなど	第2回連携会議全体会にてカナミックの活用促進のための取り組みについて報告。 市職員によるシステムの利用方法などの説明や体験を行う出張相談の周知に伴い、令和7年11月に周知用チラシを改訂。 改訂版チラシは、第3回つむぐ会通知への同封や看取り症例検討会での配布、登録率の低い種別の事業所(訪看、訪介、通介、訪問リハ、通リハ、福祉用具)への郵送などを行った。 また、12月9日に訪問看護ステーション連絡会へ説明を行った。		
	情報共有	専門職	事業所BCPIに基づいた災害時の情報共有のため、市内全介護保険事業所にIDを付与し、介護保険情報や研修開催情報などを市から随時発信することで情報共有システムを平時から使いこなせるようにする。(感染症・災害発生時)	流山市連携型BCPIにおける情報共有ツールとして情報共有システム(カナミック)を活用するため、市内介護保険事業所単位でIDを付与し、令和7年6月より運用を開始。	
	専門職	情報共有システムの機能拡充:居宅・サービス事業所連携機能(ケアプランデータ連携)の導入にむけ介護サービス事業所向けの研修会を開催する。	令和7年9月に情報共有システム研修会を実施し、システムの概要や申請方法、個人情報の取り扱いやケアプランデータ連携機能、連携型BCPIにおけるシステムの活用などについて説明を行った。また、デモ機を用いた操作体験も行った。 参加者数:第1回(16人)第2回(6人)		
	専門職	デモ機を用いて操作する体験会や実際の活用事例紹介などの内容で情報共有システム研修会を開催する。	令和7年4月に利用手引きを改定。 (主な改定事項:押印廃止、ケアプランデータ連携手引きの追加、電子証明書インストール手続の変更など)		
多職種連携	専門職	在宅・病院・施設・消防の関係者が互いの専門性や支援の視点、認識など職域理解を促進する。	介護と医療をつむぐ会の開催 第1回:令和7年7月11日(金)18:30～20:20 45名参加 「ICTを活用した多職種連携について」 第2回:令和7年10月4日(土)14:00～16:00 65名(参集)+17名(録画視聴申込)「住み慣れた地域で私らしく生きるために～人生会議とアドバンス・ライフ・プランニングのすすめ～(市民公開講座)」 第3回:令和7年12月12日(金)15:00～17:00 67名参加 「支援の風の入れ方～離れる・あきらめる勇気も必要な支援～」 第4回:令和8年2月12日(木)18:30～20:30 74名参加 「災害時対応～在宅療養者への支援～」		
日常の療養支援	多職種連携	専門職	介護と医療をつむぐ会を年4回開催する(4つの場面に沿ったテーマで開催する) 第1回 7/11 第2回10/4(市民公開講座と合同開催)第3回 12/12 第4回 2/12	つむぐ会のグループワークの話し合い内容をまとめて、つむぐ会だより裏面への掲載を今年度より開始した。	
		専門職	介護と医療をつむぐ会の開催内容を情報共有システムやホームページに掲載し、参加できない専門職に情報を発信する。	新規参加者の割合:第1回29% 第2回38% 今年度は第3回を日中開催としたこともあり、普段夜間は参加できないような新規参加の方も多かった。	
		専門職	介護と医療をつむぐ会において、病院関係者や新規開設した事業所等の新規参加者が増え、会の参加者が拡大するなど、会の活性化を図る。	在宅医療介護連携会議で取り上げた議題(ICTや災害対応など)をつむぐ会でもテーマに取り上げて検討を深めた。	
		専門職	在宅医療介護連携会議と介護と医療をつむぐ会の間で双方向のやり取りをすることで、PDCAサイクルが循環し、計画と現場の医療・介護関係者の課題認識の乖離を減らし、現場の声を反映した取り組みにつなげる。		
	市民啓発	本人 家族	市民公開講座の開催(第2回介護と医療をつむぐ会と合同開催) 日時:令和7年10月4日(土) テーマ:未定 開催内容:中期目標①市民啓発 ②人生会議(ACP)推進のための内容 開催方法:参集型・オンデマンド配信(内容などによって決定) 周知方法:若い世代の集客を図るには、情報にアクセスしやすいLINE、メール、QRコードなどを活用する。	令和7年度市民公開講座(第2回つむぐ会と同時開催)※1 テーマ:「住み慣れた地域で私らしく生きるために～人生会議とアドバンス・ライフ・プランニングのすすめ～」 日時:令和8年10月4日(土)14:00～16:00 講師:三浦靖彦氏、中村恵氏 参加者:82名(内訳:65名(参集)+17名(録画視聴申込者)) 講義の後に、参加者全員でもしバナゲームを行った。講座後、約9割以上の方が人生会議の重要性を周囲に伝えたいと回答があったため、普及啓発としての効果があったと考えられる。参加者より後日カードの貸し出しや出前講座開催希望あった。	
			専門家	おうち療養情報紙の発行:市民公開講座の開催内容や人生会議に関する内容を掲載予定。	令和8年3月21日発行予定。 ※2 表面:市民公開講座の内容(人生会議(ACP)) 裏面:救急隊の仕事紹介+平時の備え(個別避難計画・救急情報カード)
			専門家	市民の依頼に基づいて、人生会議(ACP)をテーマとした内容で出前講座を開催する。	開催回数:6回 / 参加者数:129名 ※3 もしバナゲーム体験を実施。参加者の9割以上が講座に対して「満足」と回答し、「人生の最期について考える機会になった」「家に帰って家族と話したい」という回答も多かった。
	市民啓発 人生会議	本人・家族 専門家	幅広い世代への市民情報発信の方法を検討する。(ホームページやオンデマンド配信などを活用など)	市民公開講座の周知において、CM動画やデジタルサイネージ等を活用するなど周知方法の工夫を行った。また、オンデマンド配信を行い、17名の申し込みがあった。	
	その他	専門家	対応に苦慮する困難ケースなど在宅医療・介護連携に関する相談窓口が介護支援課であることの周知を図る。	周知未実施。	
	多職種連携	専門家	困難ケースの支援について、多職種で事例検討をする機会を設ける。(認知症)	第3回つむぐ会では、認知症の事例をもとにグループワークを行った。	
その他	専門家	認知症初期集中支援チームで支援を行い、支援を行ったケースについて振り返るため、年1回認知症初期集中支援チーム検討部会を開催する。(認知症)	ケース対応件数:4件(モニタリング1件) 令和7年度認知症初期集中支援チーム検討部会:令和8年3月11日(水)15:00～16:00		
入退院支援	情報共有	専門家	「流山版千葉県地域生活連携シート」のアンケート結果を受け、様式の改訂や今後の運用など検討する。	活用実態に関するアンケート調査(令和6年度)および病院相談員連絡会・シルバー事業者連絡会居宅介護支援事業部合同研修会(令和7年11月)での意見聴取を踏まえ、令和7年度第4回連携会議にて改訂について検討。令和8年3月に改訂版発行予定。新たに入退院時多職種連携フロー表の作成を検討し、発行予定。	
	多職種連携	専門家	病院相談員連絡会に参加し、入退院支援の実態把握や連携に関する課題の抽出を行い、連携促進につなげる。(3回/年)	年間テーマ:権利擁護 第1回:令和7年7月10日 10:00～11:30 ACPについて/ディスカッション～所属機関内・地域での情報共有に向けて～ 第2回:令和7年11月13日 14:00～15:30 シルバー事業者連絡会居宅介護支援事業部会と合同研修会を実施 第3回:令和8年3月10日 9:30～11:00 施設紹介仲介業者の役割理解	
急変時の対応	市民啓発	専門家	本人・家族・在宅関係者間で急変時の対応に関する取り決めを行うことを推進する。	令和7年度おうち療養情報紙に救急情報カードに関する記事を掲載予定。	
	情報共有	専門家	救急情報カードの定期更新の呼びかけと位置への保管について推進する。		
	多職種連携	本人・家族	市民公開講座、出前講座、おうち療養情報紙等で人生会議(ACP)の普及啓発を図る。	※1、※2、※3と同じ	
看取り	多職種連携	専門家	高齢者住まい看取りケア研修会の開催し、看取りに対する職員の不安軽減につなげる。(1回/年)	令和7年7月2日 10:00～12:00 23名参加 ※4 参加者は入所施設の介護職員が多かった。アンケートからは、看取りにおける課題について、本人や家族への関わりなど、意思決定支援の難しさについての回答が多くみられた。	
		専門家	在宅療養・看取り推進のための症例検討会の開催により、圏域ごとのチーム作りを推進する。(4回/年)	第1回(東部):令和7年9月24日 18:00～19:30 21名参加 第2回(南部):令和7年10月23日 18:00～19:30 20名参加 第3回(中部):令和8年2月13日 16:30～17:50 13名参加 第4回(北部):令和8年2月20日 18:00～19:20 11名参加 第2回では、市外の大病院との連携に困難さを感じているという課題があげられた。 参加者アンケートの在宅看取りの課題については、「本人・家族の意向確認」と答えた方が特に多かった。 ※5	
		専門家	本人・家族が今後の看取りの経過や支援などについて共有できるように、医療・介護関係者向けに人生会議実践の対応力の向上のための研修会や、事例検討を開催する。	※4、※5と同じ	
災害発生時	情報共有	専門家	地域支え合い活動及び要配慮者の個別避難計画作成について推進する。	令和7年度から福祉政策課や健康増進課が連携会議に参加。「福祉と防災の連携について」を議題にあげて地域連携に向けた課題や取り組みの検討を行った。 第1回:地域における支え合い活動/個別避難計画/福祉避難所/要配慮者の安否確認、福祉避難所への移送 第2回:安否確認/個別避難計画/災害発生時の業務・対応リスト/BCP、地域連携の推進、協定締結 第3回:個別避難計画/安否確認/地域BCP/災害対応研修	
	多職種連携	専門家	災害時における要配慮者の安否確認及び福祉避難所への移送等について検討をする。	災害時における取組の検討を行うため、在宅医療介護連携会議・臨時会を開催。 令和7年12月23日 10:30～12:00 委員6名参加 議題:地域BCP/災害時対応研修 ・第4回つむぐ会「災害時対応～在宅療養者への支援～」をテーマに開催。74名参加	